

国立大学法人富山大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

富山大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを理念としている。第2期中期目標期間においては、教養教育と専門教育の充実を通じて、幅広い職業人並びに国際的にも通用する高度な専門職業人を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「富山大学機能強化プラン-CHALLENGE2014-」を策定し、機能強化のため、平成26年度までに重点的かつ優先的に取り組むべき11のプランを定め、「可視化」・「連携」・「行動」の3ステップで取り組む姿勢を明示しているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 男女共同参画推進のための事業として「研究サポーター制度」(採択者8名)、夏季学童保育(参加児童延べ156名)、ベビーシッター・休日保育利用料補助制度等を実施している。
- 平成21年度及び平成22年度評価結果において評価委員会が課題として指摘した、大学院博士課程について、学生収容定員の充足率が平成23年度も90%を満たさなかったが、教育プログラムの見直し、経済的支援策の拡大、入学定員の見直し等に取り組み、平成24年度は90%を満たしていることから、今後も引き続き、定員の充足に向けた取組に努めることが期待される。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学長のリーダーシップの下、機能強化プランを踏まえ、キャンパスごとに行っていた予算配分を見直し、全学共通経費と各キャンパス共通経費を一元化する等予算編成方針の見直しを行っている。
- 競争的資金の申請を促進するため、学内募集のプロジェクト研究の応募条件として、採択後 1 年以内に国等の研究開発費の申請や企業からの受託研究等を行うなど積極的に研究遂行のための外部資金の確保に努めることとしている。
- 複写機賃貸契約について、複数年契約（5 年）とし、1 年当たり約 4,000 万円の節約と試算されるほか、宿舎・学生寮管理運営支援業務の複数年契約化や図書館の機関リポジトリについて保守管理を含む専門業者のサーバプログラムを使用する契約とするなど経費節減を進めている。
- 総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成 18 年度からの 6 年間で 6 %以上の削減が図られている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- 〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守〕

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 24 年度から五福キャンパスは一部改善した教養教育の新カリキュラムに移行することとし、高岡、杉谷両キャンパスも五福キャンパスと共通的な枠組みのカリキュラムを策定するなど、3 キャンパスが協力して教養教育科目の充実を図るほか、共通教育センターに専任教員を計画的に配置するなど、共通教育の充実を図っている。
- 金沢大学及び地域の民間金融機関との連携で、グローバル人材育成の一環として、学生が地域企業の中国大連にある出先機関等に企業等訪問を行う「海外キャリア研修派遣事業」を実施している。
- オンラインでの学生支援を目的として開設した学内ソーシャルネットワーク「富山大学 PSNS」においては、富山大学全構成員 11,503 名のうち 63.9 %が登録し、日記形式のブログに障害学生をはじめとした学生・教職員が書き込んだ学生生活、学習やその支援についての悩みに対し、教職員全員で支援する取組を行っており、投稿数は 4,918 件、投稿に対するコメント数は 9,500 件となっている。
- 地域の民間金融機関の職員を民間等共同研究員として受け入れ、金融機関の本業支援に関する共同研究を行い、金融機関の戦略を立案するとともに、地域連携推進員として常駐派遣職員を受け入れ、先駆的な地域づくり・地域活性化プロジェクトを展開する等の取組を行っている。
- 名古屋大学、モンゴル科学技術大学及び地質解析事業等を行う民間企業との 4 者により、モンゴル国における地質構造・鉱床成因・自然環境解析、人材育成及び地質情報の基盤整備に関する包括的な連携協力推進のための協定を締結している。
- 富山市と協働して学生のまちなかでの拠点として「富山まちなか研究室」を中心市街地に開設し、学生と商店街や住民との交流を図り、市街地活性化に資する各種事業を展開している。

共同利用・共同研究拠点関係

- 和漢医薬学総合研究所では、ウェブサイト、民族薬物データベース、和漢薬 Wiki データベースによる学術情報公開、学術情報発信等を行い、研究所に集積された和漢医薬学領域の知的資源の社会還元を図るとともに、国際化に関する取組として、エジプト・カイロ大学と国際共同研究拠点を形成し、韓国・慶熙大学校韓医科大学付属韓方病院と交流協定を締結するなど、8 か国 17 研究機関と部局間交流協定を締結している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 医学生（6 年次生、5 年次生）に対する臨床研修説明会や個別面談の実施などにより、自院の臨床研修プログラムの特徴を積極的に PR し、研修希望者の増加に努めた

ことにより、マッチング率が 23 年度 72.7 % (対前年度比 25 %増) となっている。

(診療面)

- 外来化学療法や緩和ケアの知識を備えたスタッフの充実を図るとともに、患者及び家族同士が情報交換できる場として、「がんサロン(ほほえみサロン)」を設置し、更なる地域がん診療拠点病院としての整備を図っている。

(運営面)

- 看護職員の多様な勤務体制の推進及び病児・病後児保育室を整備したこと等、子育て支援環境整備を進めた結果、離職率が減少傾向(平成 23 年度 5.4 % (対前年度比 1.4 ポイント減) に転じ、看護師の職場定着に一定の効果が見られている。
- 附属病院における財務運営について、財務諸表上の附属病院セグメントと事業報告書上の収支の状況により、それぞれの観点から運営上の課題等について、今後十分な説明責任を果たすさらなる努力が期待される。

Ⅲ. 東日本大震災への対応

- 国立大学附属病院長会議の依頼により、宮城県石巻地区に医師 2 名、看護師 2 名、薬剤師 1 名、事務 1 名を 1 チームとし、7 チームを、また、国立大学医学部長病院長会議の依頼により循環器内科医師 1 名を茨城県北茨城市の病院へ派遣している。
- 富山県臨床心理士会から人間発達科学部へ派遣要請に基づき、臨床心理士の資格を持つ 3 名の教員を交代で被災地へ派遣している。
- 文部科学省 EOC 医療班からの一時帰宅者に対するスクリーニング実施担当者派遣依頼に基づき、水素同位体科学研究センター等の職員を福島県へ 13 名(延べ 28 名)派遣している。
- 緊急帰省等で富山県(近隣)に滞在している被災大学に所属の教職員・学生及び入学予定者への図書館利用サービス、情報システム利用サービスを実施している。
- 被災した学生に対し、入学料、授業料の免除等の経済的支援を行っている。